

あるってアート2012・PETIT...

川越ミュージアムロード to 織物市場

2012年11月3日～30日 川越市立美術館・川越市街

平 成24年度の川越のプロジェクトは「川越ミュージアムロード to 織物市場」(アートクラフト手づくり市 in 織物市場)として、23年度におこなった「アートフラッグをつくろう」による賑わい創生をさらに拡大する形となりました。

「川越ミュージアムロード to 織物市場」のプロジェクトでは、蔵づくり通り北詰にある札の辻交差点から美術館までの東西の一本道に加え、市役所交差点から南に向かう旧川越街道と川越蓮馨寺から立門前通りまでを結び、「ミュージアムロード」と題して、そこに小・中学生とアーティストがワークショップで制作したアートフラッグを展示しました。まち中にアートフラッグがはためき人びとを誘うとともに、関連イベントとしてアートガイドナビゲーターとともに隠れたアートスポットを巡るプログラムを

おこなって、まち中にアートを感じる機会をたくさんつくることができました。

さらに今年度は大きなポイントが二つありました。一つはアートフラッグの図案を地元の川越工業高校繊維デザイン科の生徒さんに担当してもらい、シルクスクリーンで下地づくりをおこなった点と、もう一つはアートフラッグの展示を拡大した通り沿いでは商店のウィンドウなどに飾ってもらい、制作した子どもたちと商店の方との交流や商店を訪れる人びとの語らいを生み出したことです。これらはアートフラッグを介してさまざまな交流が生まれるというプロジェクトの目的をさらに達成してくれました。

ワークショップは小・中学生とサポートの大学生、美術館ボランティアの方との総勢50名以上になり、講師の木谷安憲さんと楽しく制作することができ、展示を心待ちにしていまし

た。また、アートガイド「まちアート発見!」では雨で寒かった昨年とは違い、天候にも恵まれて織物市場の「アートクラフト手づくり市」も重なって充実した内容で実施することができました。 **田中晃 (SMF運営委員)**

ミュージアムロード・アートフラッグワークショップ

「ミュージアムロードを彩るアートフラッグをつくろう」

10月8日 / 講師: 木谷 安憲さん (美術家)

子どもたちとアーティストがいっしょにアートフラッグをつくりました。(参加者: 小・中学生25名、学生・ボランティアスタッフ25名)

アートガイド「まちアート発見!」

11月24日 / ガイド: 加藤忠正さん (NPO法人アーバンデザイン研究体理事)

川越のまちを歴史とアートな視点で歩いて楽しみました。(参加者: 17名)



あるってアート2012・PETIT...

アートクラフト手づくり市 in 織物市場

2012年11月24日～25日 旧川越織物市場ほか

川 越市内の立門前通りにある芝居小屋「旧鶴川座」の前「旧川越織物市場」(木造2階建)で、「アートクラフト手づくり市 in 織物市場」を開催しました。参加アーティストとショップの参加人数は26名。12月を間近にひかえ、さすがに寒さが身にしみる2日間でしたが、連日1000人あまりの来場者が朝早くから訪れ、熱気にあふれた開催となりました。

来場者アンケートでは、毎年の開催や年に数回の開催を望む声が多く、また今回出店できなかったジャンルのアーティストの参加を望む声も多く寄せられました。作り手の顔が見える、作り手と直接に話ができる、自分だけの一品にめぐり会える、そんなクラフト市になりました。人(心と身体)と環境にやさしいアーティストの仕事は、私たちの日常を豊かで楽し

いものにします。何度も何度も見てまわる若者たち、広場のベンチでゲームに興ずる子どもたち、移動カフェのコーヒーや栗ぜんざいで暖を取りながら長い時間を過ごす年配の方がた、アーティスト同士の交流など、訪れた市民や観光客の人びとが欲する場所がここにありました。

明治23年に建設された「旧鶴川座」は芝居小屋から映画館に転用され、現在は隣近隣の建築学科の展示会やショップイベント、ライブなどに使われています。また明治43年に建設された「旧川越織物市場」は、かつて織物と人びとが行き交う川越の織物文化を支えた場所でしたが後に住宅として転用され、平成13年にはこの場所にマンション計画が公表されたのをきっかけに保存運動が起こり、平成14年に建物は市の所有となりました。

た。いつの時代にも、その時々のデザインの息吹をかたちにして伝え、残されてきた歴史的建造物の活用につなげようと、わたしの所属する「アルテクルブ」(芸術分野の様々な活動とまちづくり運動を、市民が自主的に企画、運営、支援する非営利組織)では、さまざまなアートの展開により、それらの空間特性を表出させてきました。今回の開催では、「川越織物市場の会」のみなさんによる豚汁のサービスや商店街の書店の臨時ショップが開かれ、同会編集の「川越商都の本綿遺産」や観光書籍の販売もおこなわれました。また、運営スタッフとして大学生の参加もあり、アートクラフトを介在させた幅広い交流が生まれて、地域のなかで歴史的建造物を活用していこうという機運を感じる開催となりました。

草野律子(SMF協力委員)

